

研修会報告

令和 6 年 6 月 3 日

文 責：尾池 裕子

研修会テーマ「令和 5 年度宮臨技精度管理調査 細胞診部門フォローアップ研修会」

開催日時 令和 5 年 5 月 26 日（日）13：00～15：00

会 場 Zoom ウェビナーによる Web 研修会

司 会 小泉 照樹

生涯教育点数 専門教科 20 点

参加者 会員参加者 44 名 入会申請中会員 0 名 非会員 0 名 賛助会員 0 名 学生 0 名
合計 44 名

講演 1「令和 5 年度宮臨技精度管理調査 細胞診部門調査報告・設問解説」

東北公済病院 臨床検査科 高橋 良輔 技師

講演 2「令和 5 年度宮臨技精度管理調査 細胞診部門アンケート報告（LBC について）」

国立病院機構 仙台医療センター 臨床検査科 齋藤 邦倫 技師

講演 3「尿細胞診の見かた（尿路上皮癌の細胞診断）」

東北大学病院 病理部 三浦 弘守 技師

内容

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行して一年が過ぎ、実地開催の研修会も多くなってきたが、本研修会は前年と同様に Zoom による Web 開催となった。

講演 1 では令和 5 年度細胞診部門精度管理調査結果の報告とフォトサーベイの解説を行った。結果は全設問において正解率 80%以上となる良好な成績であった。普段見慣れない施設が多いためか、やや正解率の低かった乳腺と教育症例についてより詳細な解説を行った。

講演 2 では LBC に関するアンケート調査結果報告を行った。2019 年に実施した同内容のアンケート結果と比較して、時間経過による県内施設の LBC 導入の実態・考え方の変遷を考察した報告内容であった。県内の LBC 導入施設は増加傾向にあり、そこからコスト面や細胞像に関する問題点がより明確となる結果であった。

令和 6 年 6 月の診療報酬改定では婦人科材料等 LBC 加算の増点が決定していることから、LBC は今後さらに普及が進むと予想される。定期的な調査の必要性を考える。

講演 3 では日本臨床細胞学会泌尿器細胞診報告様式検討ワーキンググループ委員も務められた三浦弘守技師に「尿細胞診の見かた」と題してご講演いただいた。前半は尿細胞診で用いられる報告様式と判定基準、それぞれの類似点や相違点などを分かりやすく説明していただいた。後半は上部尿路上皮癌（腎盂・尿管カテーテル尿）の細胞診断における重要な

細胞所見を構造異型と細胞異型に分けて、多数の写真を用いて詳細に解説いただいた。明日からの細胞診業務に役立つ実践的な内容であり非常に有益な講演であった。

今後も、精度管理やアンケート調査を通して得られた情報を宮城県臨床検査技師会員に還元し、共に成長できるような研修会の開催に努めたい。